

1. 植木・小島方面の再編について

植木・北部方面及び小島・城山方面について、**利用状況に応じた幹線・支線化や運行の効率化**などの再編に取り組む。



● 再編の概要

- 植木方面…植木バス停で幹線・支線化を行う
 山鹿線…直通運行を維持
 玉名線…センター行きは午前、玉名駅行きは午後を中心に直通で運行し、
 その他は植木で幹線・支線化
 南関線…植木で幹線・支線化
 植木線…増便(植木⇄交通センター間にて、需要に応じた便数を維持)
- 小島方面…天水支所～河内温泉センター間で幹線・支線化を行う
 玉名駅からは河内温泉センターまで、交通センターからは
 小天温泉または天水支所で折り返し

● 再編の効果

- 区間短縮による定時性の向上
- 運行効率化による乗務員の確保

● 乗換環境改善に関する取組について

- 乗換地点の整備
 植木方面…植木バス停
 ・上下線ともに既存の上屋・ベンチあり
 ・上下線ともにバスロケモニター設置予定
- 小島方面…河内農協前バス停
 ・上下線ともに上屋・ベンチ設置予定
 ・上下線ともにバスロケモニター設置予定



植木バス停



河内農協前バス停

● 乗換割引制度の導入

くまモンのICカードにて乗換による運賃負担の軽減策を実施

● 今後の進め方

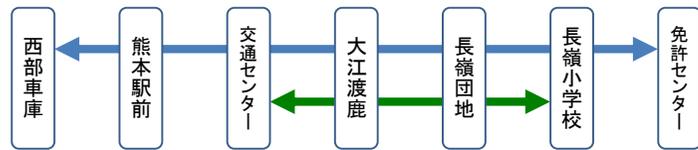
- 今回の再編は、国の再編特例の適用が限定的であることから、再編実施計画の策定は見送る。
- 引き続き、事業者や熊本県、関連市町村との協議・調整を行い、2019年10月運行開始を目指す。

バス路線網再編における取組状況について

2. 競合路線の改善

以下の2路線にて、ダイヤの調整及び統一時刻表の導入を行う。

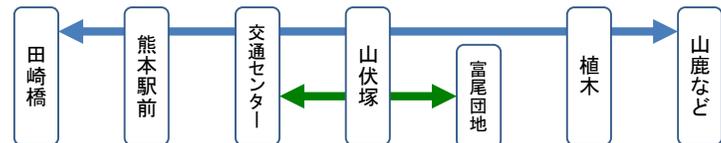
- 東西線(九州産交バス)、渡鹿長嶺線(熊本市バス)



- ダイヤを調整し、近時分間隔での運行を解消
 - 長嶺小学校前～渡鹿7丁目(上りのみ)の13停留所で統一時刻表を導入
- ⇒ 近時分間隔(0～3分)の解消(赤字で表示 9ヶ所→2ヶ所)

改正前		改正後	
時刻	停留所	時刻	停留所
7:00	西部車庫	7:00	西部車庫
8:00	熊本駅前	8:00	熊本駅前
9:00	交通センター	9:00	交通センター
10:00	大江渡鹿	10:00	大江渡鹿
11:00	長嶺団地	11:00	長嶺団地
12:00	長嶺小学校	12:00	長嶺小学校
13:00	免許センター	13:00	免許センター
14:00	免許センター	14:00	免許センター
15:00	免許センター	15:00	免許センター
16:00	免許センター	16:00	免許センター
17:00	免許センター	17:00	免許センター
18:00	免許センター	18:00	免許センター
19:00	免許センター	19:00	免許センター
20:00	免許センター	20:00	免許センター
21:00	免許センター	21:00	免許センター

- 山鹿線等(九州産交バス)、富尾団地線(熊本市バス)



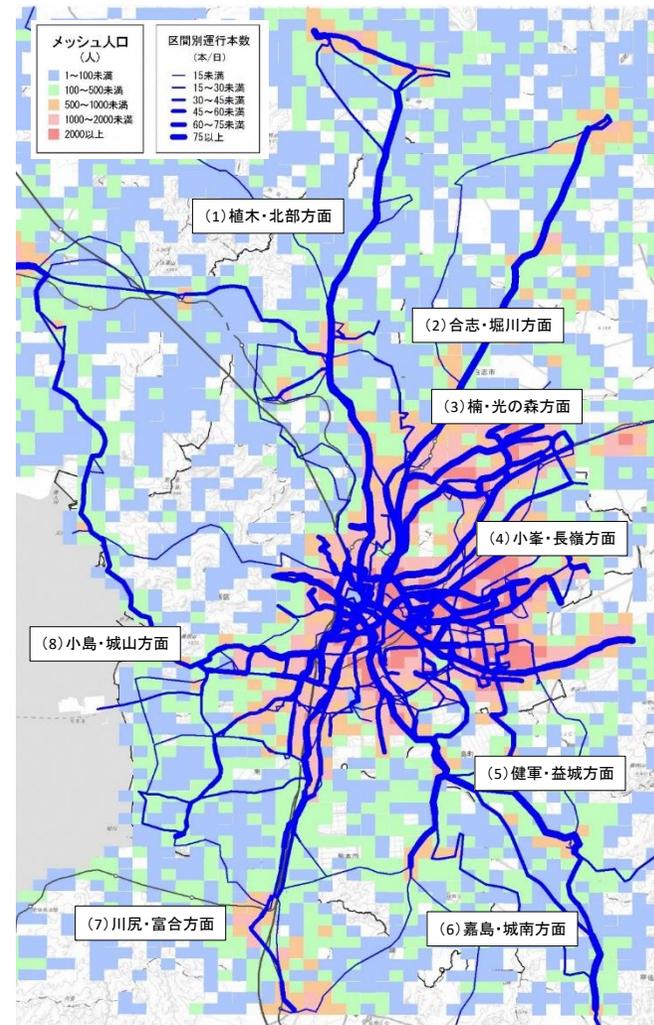
- ダイヤを調整し、近時分間隔での運行を解消
 - 山鹿線については山伏塚～家庭裁判所前(上りのみ)の9停留所で統一時刻表を導入済
- ⇒ 近時分間隔(0～3分)の解消(赤字で表示 99ヶ所→68ヶ所)

改正前		改正後	
時刻	停留所	時刻	停留所
7:01	田崎橋	7:01	田崎橋
8:08	熊本駅前	8:08	熊本駅前
9:07	交通センター	9:07	交通センター
10:03	山伏塚	10:03	山伏塚
11:01	山伏塚	11:01	山伏塚
12:06	山伏塚	12:06	山伏塚
13:06	山伏塚	13:06	山伏塚
14:06	山伏塚	14:06	山伏塚
15:05	山伏塚	15:05	山伏塚
16:01	山伏塚	16:01	山伏塚
17:01	山伏塚	17:01	山伏塚
18:03	山伏塚	18:03	山伏塚
19:00	山伏塚	19:00	山伏塚
20:03	山伏塚	20:03	山伏塚
21:00	山伏塚	21:00	山伏塚
22:04	山伏塚	22:04	山伏塚

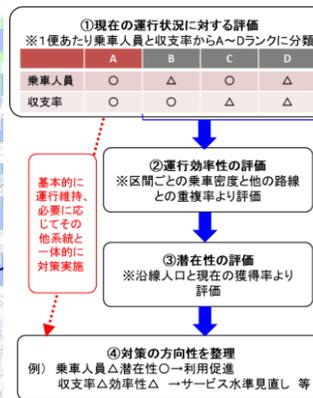
- ◆ 熊本桜町バスターミナルの開業、植木方面の再編に合わせて、更なるダイヤ改善に向けた調整を検討する。

3. バス路線の評価

バスの運行状況や利用実態、人口分布などを加味した路線評価を実施。



- 8方面に分類。
 - (1) 植木・北部方面
 - (2) 合志・堀川方面
 - (3) 楠・光の森方面
 - (4) 小峯・長嶺方面
 - (5) 健軍・益城方面
 - (6) 嘉島・城南方面
 - (7) 川尻・富合方面
 - (8) 小島・城山方面
- 運行本数や乗車人員を人口分布等のデータと併せて地図上に表示し、バス路線の状況を可視化。
- 平均乗車人員や収支率、区間ごとの運行効率性や人口分布などの潜在性から評価。



▲ 評価実施の流れ

- バス事業者と中間とりまとめ資料の共有や勉強会を通して、意見交換しながら分析・評価を実施。
- 各路線を評価したカルテについては最終とりまとめ中であり、今後、バス路線網の再編や運行ダイヤの改善に活用。